



令和4年度「関東甲信越地方ブロック会議」開催

【本部】



令和4年10月5日(水)東京都の経団連会館において令和4年度建設業協会関東甲信越地方ブロック会議が開催されました。

〈出席者〉

- 国土交通省
長橋和久不動産・建設経済局長 外11名
- 関東地方整備局 廣瀬昌由局長 外3名
- 北陸地方整備局 2名
- 中部地方整備局 2名
- 一都九県県土整備部長等
- 一般社団法人全国建設業協会
奥村太加典会長 外9名
- 関東甲信越地方の10都県建設業協会正副会長
外幹部職員32名

本県協会からは谷黒克守会長と入江和夫副会長、印南洋之専務理事が出席しました。

関東甲信越ブロック会長会要望事項として以下の9項目の議案が提案されました。

- ① 防災・減災、国土強靱化の「5か年計画」の策定と安定的持続的な予算の確保について
【新潟県協会提案】
- ② 建設資機材の価格高騰への対応について
【神奈川県協会提案】

- ③ 公共工事標準請負契約約款第30条（不可抗力による損害）の改善について
【長野県協会提案】
- ④ 働き方改革に伴う現場管理費（職員給与、福利厚生費など）の根本的な見直しについて
【山梨県協会提案】
- ⑤ 週休二日制導入に伴う人件費等への対応について
【栃木県協会提案】
- ⑥ 総合評価落札方式における賃上げを実施する企業に対する加点措置について
【群馬県協会提案】
- ⑦ 技術者不足への対応について
【千葉県協会提案】
- ⑧ 改正品確法の市町村への徹底について
【埼玉県協会提案】
- ⑨ 直轄工事への新規参入の促進について
【茨城県協会提案】

本県協会提案の「⑤週休二日制導入に伴う人件費等への対応について」は、入江副会長から年収維持のための労務単価の引き上げと週休二日制工事の補正率のさらなる引き上げ、週休二日制工事の民間工事導入に向けた実効性ある取り組みの三点について要望しました。





いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会

【本部】



▲いちご一会会場中心の好エリアに出展させていただきました！

令和4年10月1日～11日とちぎ国体が42年ぶりに、10月29日～31日のとちぎ大会は初めて、本県で開催されました。

これに伴い、栃木県の様々な魅力を来県する多くの方々や全国に向けて広く発信するためのブース出展が募られ、国体パートナーである栃木県建設業協会も、栃木県総合運動公園「いちご一会広場」にてインスタ映えスポットの設置、及び広報機関紙やノベルティグッズの配布で業界のPRを行いました。

ブースに6つの巨大パネルを展示したところ、会場施設の全景巨大パネルは珍しく、また栃木県のゆるキャラで人気のとちまるくんと建設作業員がコラボレーションした顔抜きパネルも好評で、多くの来場者が足を止めてくださいました。



そのほか「建設業と一緒に作ろう伝説を」のPR動画を終日放映し、耳にサウンド、目にダンスを印象付けることができました。

配布したノベルティグッズの「缶飲料キャップ」1万3千個にも「栃木県建設業協会100周年」の印字があり、安心を支え続けて100年、そしてこれからの100年も人々の安心を支える建設業の決意を多くの方にPRできたのではないかと思います。

国体参加者への『おもてなし』

～産学官共同で雀宮駅前に「おもてなしフラワーポット」設置～

【宇都宮支部】



▲産学官共同で花を植える

(一社)宇都宮建設業協会(菊池三紀男会長)は栃木県宇都宮土木事務所(青木淳所長)ならびに栃木県立宇都宮工業高等学校(菅野充広校長)と共同でJR雀宮駅東口ロータリーにフラワーポットを設置しました。

これは42年ぶりに栃木県で開催された「いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会」のメイン会場となったカンセスタジアムへ向かうシャトルバスの発着場所がJR雀宮駅になることから、国体参加者ならびに観戦者への『おもてなし』とともに栃木県のイメージアップを図ることを目的としたものです。



▲参加者への「おもてなし」

3者の協力体制は、宇都宮土木事務所が占用許可の申請をはじめとした対外的な折衝全般を担当、宇都宮工業高校が間伐材を利用した花鉢を制作・提供し、宇都宮建設業協会が花・土・PR看板を提供しました。また、花の植え付けや設置は3者合同で実施し、国体開催期間中の花への水かけ等も3者で分担して行うという、まさに産学官が三位一体となって進めた事業となりました。(岩原産業(株) 岩原正樹)



都市計画道路3・4・202号 古峯原宮通り(千渡東工区) 開通式

【鹿沼支部】



▲全体集合写真

令和4年9月25日に都市計画道路3・4・202号古峯原宮通り(千渡東工区)開通式に出席いたしました。本路線は通勤通学等の日常生活を支えるとともに、宇都宮市との連携を図る上で重要な路線です。しかしながら、現道部は交通量が多く、朝夕を中心に慢性的な渋滞が発生しており、歩道が狭隘であることから、円滑な交通と自転車・歩行者の安全の確保が求められていました。本路線のバイパス整備により、現道からバイパスへの交通転換がなされ、現道部の慢性的な交通渋滞が緩和し、目的地への走行時間が短縮されます。また、宇都宮市との連携が強化され、地域産業および経済の活性化につながります。



▲宇賀神支部長がテープカットに参加



▲開通式式典に参加

両側に3.0mの歩道が整備され、歩行者や自転車の安全で快適な通行空間が確保され、バイパスが4車線化することにより緊急車両の通行がスムーズになり、都市防災機能の強化となります。

同日の午後2時に暫定2車線で供用開始、残りの2車線は令和5年度に予定されています。(株)半貫建設 半貫昌英

令和4年度日光土木事務所 道路除雪隊出動式

【日光支部】



▲集合写真

今年も除雪の季節になり、令和4年11月2日に日光土木事務所において道路除雪隊出動式が行われました。今回は、式に先立ち近隣小学校の4年生児童を対象に、日光建設業協同組合員がドーザ等道路除雪機械の働きを説明しました。児童たちは初めて間近に見る除雪機械に驚きながら見学していました。

冒頭あいさつで、松本所長は「除雪作業の安全確保」「未来への期待」等を挙げ、それぞれ「資機材の点検や作業手順の確認徹底」「児童に除雪作業への関心を持ってもらい、未来の地域を守る人材の育成」等を訴えました。道路除雪隊を代表して、柴田政之代表理事は「維持管理業務委託を受諾後、道路や河川など生活基盤の確保、復旧に組合員が結束し全力で取り組み、地域に安全・安心を届けてきた。除雪についても同様に成果を挙げてきた。培った技



▲説明を聞く児童たち

術、技能、地域とのコミュニケーションを生かし、安全・安心・確実な冬季交通の確保に全力を挙げて除雪作業に従事する」と決意を述べました。

(斉藤建設(株) 斉藤一明)



高校生現場見学会 思川開発事業南摩ダム建設現場

【芳賀支部】



▲ダム本体工事を間近から見学

令和4年10月14日、芳賀支部恒例の真岡工業高校1年生の現場見学会を開催いたしました。出発前に坂野支部長のあいさつと石島教頭が「普段の授業では体験できないような学びを体験してほしい」と訓示しました。

今年度は鹿沼の南摩ダムを見学し、現地では「水資源機構思川開発建設所」事業調整役の大村朋広氏が工期は1969年～2024年度完成で本体、導水施設、管理設備、付け替え道路などに202億3,400万円の予算を組んでおり、総貯水量5,100万立方メートル、導水施設は黒川導水路(延長約3キロ)で最大通水量毎秒8立方メートル、大芦川導水路(約6キロ)が最大通水量毎秒20立方メートル見込まれていると説明しました。

生徒たちは間近で見る大型重機やダム建設状況を見て驚いていました。

また、アンケートを取った結果



- 実際に作業現場を見るととても楽しく仕事のやりがいがありそう。
- ダム工事ではいろいろな建設会社がチームとなってダムを造っているのが分かった。

見学をした際に「せーの」という声が聞こえてきて建設現場も連携が必要だ。

このほか様々な感想が出されて生徒たちの真剣さが伝わってきました。

今回の現場見学会を機に一人でも多く建設会社に就職されることを望んでいます。(大関建設(株) 大関好男)

若年者建設業担い手 育成支援事業

【下都賀支部】



▲出席者全員で挨拶

令和4年10月21日および11月1日、下都賀支部建友会にて、「若年者建設業担い手育成支援事業」を行いました。対象になった高校は、小山北桜高等学校建築システム科と栃木農業高等学校環境デザイン科で、授業形式で建設業の必要性や現場代理人の仕事の内容についてわかりやすく説明させていただきました。



▲栃木農業高等学校にてWEB授業の様子

また、Zoomによる現場見学会としましてWEBにて佐藤工業(株)で施工されている獨協医科大学看護学部棟増築工事および小林・川島JVで施工されている一級河川永野川護岸工事その18と中継をつなぎ、現場代理人が現場事務所の様子や実際に施工している現場の状況など、質疑応答を交え丁寧に説明を行いました。

その後、少人数のグループに分かれて座談会を開き、会員が直接生徒たちと会話をしながら建設業の魅力の説明しました。

その後、少人数のグループに分かれて座談会を開き、会員が直接生徒たちと会話をしながら建設業の魅力の説明しました。



▲小山北桜高等学校にて授業



▲座談会の様子

生徒たちからも熱心に質問が上がったり、時折笑い声が響き渡るなど、終始興味深く耳を傾けてもらいました。(株)山中組 山中慎太郎



塩谷支部創立100周年 記念式典

【塩谷支部】



▲岡村支部長式辞

令和4年10月7日、栃建協塩谷支部創立100周年記念式典を矢板市のメイフラワーゴルフクラブで開催しました。

築・五十嵐両衆議院議員、小菅県議会議員、県出先事務所長、谷黒協会長をはじめ正副会長、各支部長、同支部歴代支部長ら40人を来賓に招き塩谷支部会員が出席し、総勢85人が100周年を祝いました。

塩谷支部は1923年(大正12年)1月に県土木建築請負業組合の塩谷支部として発足し、昭和26年に現在の名称であります栃木県建設業協会塩谷支部と改称されました。

記念講演としてバドミントン元日本代表の小椋久美子氏を招き「今後の夢ある未来について」と題し、失敗を成功に導く心の持ち方について講演していただきました。



▲オープニングムービー

塩谷支部は令和3年3月に新会館が完成し、支部会員一同気持ちを新たに支部運営に日々励んでおります。支部創立100周年を迎え、先人

のご尽力に感謝するとともに、次の100年も時代の変化に対応し、建設業としての使命を果たしながら次世代につなげていきたいと思っております。

100周年記念事業にご尽力いただきました、支部長、100周年準備委員会、協賛者様に感謝申し上げます。

(友建工業(株) 小菅秀樹)

山崎エリナ写真展と 建設フェスタ

【那須支部】



▲高所作業車搭乗体験



令和4年8月6日から9月19日、那須塩原市図書館みるるにおいて写真家山崎エリナ写真展「この那須(くに)をつくる この那須(くに)を守る仕事 ~日常と安全を守る人々~」(共催:那須塩原市)を開催しました。2020年から2021年にかけて那須支部会員の施工現場を撮影した写真を展示し、地域建設業の仕事への理解と地域の若手への入職の促進を目的に実施されました。



9月10日には渡辺美智太郎那須塩原市長を交えたトークショーを開催し、多くの市民が観覧にいられました。また、同日には那須塩原市まちなか交流センターにおいて那須支部・那須支部青年の会にて「建設フェスタ」を開催し、炊き出し訓練カレーの配布、重機の搭乗体験を行い多くの子供たち、家族連れが来場され地域建設業を身近に感じてもらえる有意義なイベントとなりました。

※トークイベント動画 <https://youtu.be/XGOSy-DlofE>



(マルホ建設(株) 星 豪紀)



豚熱 (CSF) 56,298頭埋却処分実施

【烏山支部】



▲「埋却作業を行う烏山支部員」(写真提供: 栃木県)

烏山支部では、県内4事例目となる『豚熱(CSF)』発生の連絡を受領し栃木県の対応方針等の確認をいたしました。栃木県豚熱対策本部、本部長福田富一知事の下に、令和4年7月23日(土)16時30分から塩谷南那須地域豚熱現地対策本部会議に出席し、栃木県と栃木県建設業協会の協定に基づき、烏山支部が国内最多を更新する豚熱埋却処理作業を実施することになりました。

7月22日に対策本部を設置し技術委員を緊急招集。令和4年3月に那珂川町にて発生した豚熱埋却作業の経緯があり、その経験を活かしながら真夏の作業対応、作業計画等の検討を行いました。全員協議会で計画・班編成等の説明及び協力を依頼、支部員が一致団結して対応する旨の了解を得ました。

灼熱の中、防護服を装着しての埋却作業は困難を極めましたが、9月9日には殺処分(56,298頭)された豚の埋却作業が完了。9月30日には、その他の埋却作業、消石灰の散布が終了し、計画より早く作業を終えることができました。

顧みますと、豚熱現地対策本部、塩谷南那須農業振興事務所、県北家畜保健衛生所との緊密な協議や打合せが埋却実施に向けて重要でありました。また、無事故で作業を完了することができましたが、安全や効率的な進捗のためには、毎日実施された作業班の引継ぎ時の安全対策確認が重要なポイントとなりました。

最後に、関係者の皆様方の迅速な連携により豚熱埋却作業が順調に実施できたことに感謝申し上げます。
(株)中山建設 阿久津 太



▲「ブルーシート張りを行う烏山支部員」(写真提供: 栃木県)



▲「消石灰散布を行う烏山支部員」(写真提供: 栃木県)



総合学習支援活動 (葛生南小)

【安蘇支部】



▲将来の仕事は建設業へ

令和4年11月2日、安蘇支部では佐野市立葛生南小学校において会員企業17名で総合学習支援活動を行いました。安足土木事務所からも3名の職員に参加していただきました。

全児童44名を対象に、建設業の仕事内容は建物や道路などを造るのはもとより、災害時の対応や除雪活動、鳥インフルエンザ・口蹄疫等への対応も行っていることを、紙芝居や建設学習帳を使って説明しました。

続いて体験学習ではバックホウや高所作業車に同乗し、建設機械のすごさや楽しさ、魅力を感じてもらいました。並行して安足土木事務所によるドローン飛行も間近で見ることができて良かったと思います。



天気にも恵まれ、児童のみみんなも楽しく体験できたと思います。感想で「建設業の知らない部分も分かり勉強になった。」という言葉もあり、将来の進路の選択肢の一つになってほしいと思いました。葛生南小は今年度で閉校となりますが良い思い出となってほしいです。

(株)木村土建 木村一成

足利尊氏公マラソン大会前 クリーン作戦

【足利支部】



▲足利尊氏公マラソン大会クリーン作戦

令和4年11月2日、「生涯スポーツの振興と足利市の魅力を全国に発信」をスローガンに、足利市主催の第45回足利尊氏公マラソン大会が開催され関東圏から2,870人が参加し、快晴のもとで市民ランナーが汗を流し元気に完走しました。例年5千人を超えるランナーが集う大会ですが、コロナの影響もあり3年ぶりに規模を縮小し開催されました。私たち建設業に携わる者として、県内外から足利市に足を運んでくれるランナーにスポーツを楽しんでもらうため、「おもてなしの心」で大会前に清掃活動を実施し今回で15回を迎えました。

ボランティア活動の当日は、道路管理者である安足土木事務所、足利市、栃建協足利支部、足利市建設業協力会、両毛舗装事業(同)の職員及び会員延べ100人ほどが参加し、県庁舎前で出発式を行い栃木県若手職員の氣勢の掛声のもとコース周回を7班に分かれ清掃活動を行いました。



今後もこの歴史ある大会が足利の魅力発信の起爆剤として末永く続くことを祈念し、これからも活動を続けます。

(三興工業(株) 山根良樹)